

## 『医心方』の伝写について (II)

杉 立 義 一

第82回本会総会において『医心方』の伝写について推論し、数種の写本および安政刊本の註・背記・札記と巻22の妊婦図よりして、伝写に二つの系統があること。一つは仁和寺本の系統であり、一つは半井本の系統であること。前者は註や増補も少ないが、後者は加筆・註・増補が多いことをのべた。今回は筆者の知りえた現存する『医心方』の抄本を列記し、これを三群に大別して簡単な知見をくわえる。

### A群 半井本系

- 1、半井家蔵 30巻30軸
- 2、宮内庁書陵部蔵

現在半井本は公開されていないため、安政元年に多紀元堅らが、忠実に影写した宮内庁本とこの影写事業に参加した森立之の手記・『医心方提要』（大日本史料第一編之二十一）

を参考にして考えると、半井本は天養二年（一一四五）に宇治本・医家本・文殿の勘物を勘案して新しく移点した抄本であることがわかる。その後数百年、宮中に秘蔵されている間にも和丹両家の医官にはまま閲覧させ、註・書入れ・増補をうけたと筆者は考えている。この点については別の機会に詳述する。正親帝より半井瑞策に下賜された後も、一部流出・消失があり、これの補完を行った形跡がある。特に巻22と巻28は最も新しくして江戸初期の筆写である。

### 3、お茶の水図書館蔵・成篋堂文庫、巻22

これは室町期に半井家より京都岡本家に流出し、錦小路家を経て徳富蘇峰の所蔵となったが、現在はお茶の水図書館に所蔵されている。平安末の作。

### B群 仁和寺本系

#### 4、仁和寺蔵 5巻

平安末期または鎌倉初期の抄本で国宝指定。『本朝書籍目録』によれば仁和寺には鎌倉時代に『医心方』30巻があった。寛政三年に幕府に提出した時には巻名明示11包・巻名不明11包計22包があった。また小島学古が天保十三年に仁和寺に赴いて実見した時の記録、『河清寓記』にも同じ

く22包あったことが記してある。それが現存するのは、巻1・5・7・9・10の5巻のみである。仁和寺本は註・増補も少なく、安政本の札記より類推すれば宇治本と相似ている。『医心方』がどのような経路を経て仁和寺に入ったかは今後の探究にまつ。

5、内閣文庫蔵 20巻20冊

寛政三年、仁和寺から幕府に提出された『医心方』は22包あったが、これを多紀元恵らは17巻にまとめて筆写して、これに多紀家旧蔵零本3巻(巻2・8・22)を加えて新しい抄本を作った。正本は幕府に献上して医学館に残した。これが紅葉山文庫から内閣文庫に移った。

この副本を多紀氏は幕府の許可をえて自家(聿修堂)に残した。しかし天保十年九月十二日に焼失したため現在みることはできないが、以下の諸種の抄本は聿修堂本を筆写したものである。

6、蓬左文庫蔵 20巻20冊

聿修堂本を浄書して尾張侯に献上したもので善本である。跋文は内閣文庫本と若干異なる所があり、特に多紀家旧蔵零本を4巻(巻2・4・21・22)としている。以下の諸

抄本もみな蓬左本と同じ跋文を附している。

7、東大綜合図書館蔵 多紀元堅旧蔵 20巻20冊

元堅が書店から購入した抄本の欠落部分を補うため、本家の聿修堂本を借りうけて写した。天保十年九月十二日の元堅識語がある。

8、大東急文庫蔵 木村正辞旧蔵 20巻20冊

伊沢信恬(蘭軒)は友人島武に依頼して文化十四年より三カ年を費して聿修堂本を筆写させた。文政三年五月の信恬の跋文がある。森鷗外の伊沢蘭軒伝に詳しく掲載してある。

9、杏雨書屋蔵 19巻20冊

10、杉立架蔵 19巻20冊

9と10は森川免毛(京都の和方家森川宗円と同一人物か)が文政十三年に聿修堂本を筆写したものである。跋文の最後に免毛の識語がある。杉立蔵本は版が大きく、縦三三・五糎・横二四糎ある。

11、静嘉堂文庫蔵 19巻17冊

筆写年・写手不明・内容は聿修堂本と同じ。

12、刈谷図書館蔵 村上文庫・20巻22冊

刈谷藩医村上承卿旧蔵・筆写年不明。

13、杏雨書屋蔵 16巻20冊

嘉永四年、尾張の中村有嘉が蓬左文庫本を重抄したものか。

14、三宅氏蔵本 19巻24冊

年月、写手不明、恐らく幕末頃の抄本。

15、杏雨書屋蔵 8巻8冊

嘉永二年野上政純が、8を重抄したもの。

16、杏雨書屋蔵・白河文庫旧蔵 10巻10冊

17、内閣文庫蔵・浅草文庫旧蔵 6巻6冊

18、杏雨書屋蔵 19巻20冊

昭和十四年浜田繁次郎が9を筆写したもの。

C群 零本

19、杏雨書屋蔵 巻22・明和四年片倉鶴陵写

20、杏雨書屋蔵 巻6・17 伴直方写

21、杏雨書屋蔵 巻22 小島学古写

22、尊経閣文庫蔵 巻15・16 宝永八年・半井氏蔵本を借りて写す

23、石原明氏蔵 巻2・4 宝暦八年紀宗直写

24、京大医学図書館蔵 富士川文庫 巻8

文政年間、北条相模守が脚気発病の際に、多紀元堅が半井氏所蔵の延慶本巻8を借りて写さしめた。八葉のみ。

25、国会図書館蔵 巻30

26、宮内庁書陵部蔵 巻3

27、静嘉堂文庫蔵 巻1・2

28、杏雨書屋蔵 巻1、巻1、巻4、巻2・4

29、無窮会図書館蔵 神智文庫 巻1

30、国会図書館蔵 白井文庫 巻1の諸薬和名

31、京大人文科研 文化四年写 諸薬和名

32、杉立架蔵 文化七年米関拙写 諸薬和名

33、刈谷図書館蔵 村上文庫 医心方抄

天保十一年村上承卿写。

(京都府医師会)